

one

9号

2000年・秋号

「もはや二人ではなく一体 (one) である」 マタイ19:6

Just Married!

ミレニアム婚ラッシュの今年、私たちは聖イグナチオ教会で結婚式を挙げました。5ヶ月間の結婚セミナーでは、結婚後の生活や、二人の関係についてじっくり話し合うことができました。結婚式を挙げて、はや数ヶ月、楽しい新婚生活を送る毎日ですが、いざ生活してみるとあんなに話し合ったにもかかわらず、結婚前には 思ってもみなかった現実と向かい合っています。そこで、今の率直な気持ちを取りあげてみました。

●一緒に時間が短くなって

会話も減った?

基本的には家に帰ればいつでも二人一緒にいる。でも、一緒に過ごしている時間が前より少なくなった気がする?! 結婚前にデートしていた時と、今とは全く違う。まず、会話が減った。前は相手のことを理解するためにもっと色々なことを話していた。今はお互いの顔が見えるからか、言葉だけじゃなくて、相手の表情や、かもし出す雰囲気や相手のことがわかる感じがする。会話が無い状態も結構心地よい。

●ケンカが多くなった?

生活習慣の違いや生活ペースの違いからか、結婚前より些細なことで

ケンカをする。以前は、せっかくの「一緒に過ごせる時間」に嫌な思いをするのが恐くて、お互い我慢していることも多かった。今、一緒に暮らし始めてからは、よくケンカをするようになった。二人の生活をより良くしていくために? でも、こういうちょっとしたケンカの繰り返しで、二人の絆や信頼関係が深まっていくんじゃないかな。結婚の前と後ではギャップがあるけれど、このギャップを楽しんで、これから二人でこのギャップを埋めていくのが「結婚生活」の醍醐味かも…。

●でも結婚して良かった!

だけど、結婚して良かった! 大好きなパートナーの顔を毎日見ること

Information

今年も「結婚感謝の集い」が行われます。

日時: 11月5日 (日) 午後3時より

場所: 聖イグナチオ教会主聖堂

今年、七五三のお祝いを迎えられるお子様は、神父様から祝福を受けることができます。

つづいて、親睦パーティが開かれます。(参加費無料)

小さいお子様連れ大歓迎です。

ご家族お揃いでおいでください。

ご意見・ご感想は

e-mail:one@ignatius.gr.jp



ができるし、大好きな人と一緒に住んでいるという安心感、自分の家、家族ができたという充実感。里帰りをして、もう「自分の家」ではなく「親の家」になってしまった気がする。ついこの間まで住んでいたのに不思議。結婚してまだ数ヶ月なのに、もうすでにパートナーと築いている家庭が「我が家」になっているんですね。



皆さん
こんにちは
ペニユエラです!

私はこれまでに

多くの結婚クラスとセミナーを、何組ものヘルパーのご夫婦と協力しながら担当してきました。

結婚クラスとセミナーでの私の役割は、これから結婚される皆さん(そしてヘルパーの方々)が、自分たちのことをじっくり考え、話し合う様子を見守ることでした。皆さんが話し合われている間、私は静かに耳を傾けることに専念しました。それ

夫婦の一致

☆司祭からのメッセージ☆

は、あるメッセージを皆さんにお伝えしたかったからです。私が語るよりも、皆さんに体験して頂きたいメッセージです。

私が夫婦になる皆さん(そしていま夫婦として生きているお二人)に最もお伝えしたいのは、「夫婦の一致」ということです。夫婦の一致とは、二人が共に考え、話し合い、また考え、一緒に人生を築いていくことです。これは親や親戚など、他人が入ってはいけない、二人だけの領域です。夫婦にとって、何よりも大切なものは、仕事や名誉、お金や家、あるいはお子さんがいらっしゃる場合

にはお子さんたちではなく、まず夫婦として一致することです。これを念頭に二人で生きてゆくのなら、仕事など他のことにも自然と心が満たされます。お父さんとお母さんの心と行動が一致しているのを見れば、子供は安心します。結婚クラスとセミナーは、お二人がこれからの結婚生活で一致するためのリハーサルの場合だと私は考えます。

皆さんがこれからも、もっともっと「一致」されますことをお祈り申しあげます。

マリアノ・ペニユエラ

前号の読者アンケートで、今後取り上げて欲しいテーマの第1位が「育児」でした。ONE編集部の中にも、ミレニアムベビーが続々と誕生し、新米パパの奮闘ぶりから私たちは「父親と育児」を今回のテーマとして取り上げてみました。

特集：父親と子育て

漠然としたイメージしか浮かばないこの問題、実際のところ「よそのお宅」では、どんな風にとらえているのでしょうか？

生後2ヶ月の赤ちゃんから14歳（中学2生）までのお子さんを持つカップル8組に文書によるインタビューを試みました。
（インタビュー回答末尾の記号／数字は子供の性別／年齢です）

● お父様へ

Q1：家庭の中で「これは父親の役目」という約束事はありますか？

- ・生活費を稼ぐこと。（♂6ヶ月）
- ・力仕事や家具、家電の修理。（♀14歳、10歳）
- ・週末は一緒にお風呂に入る。（♀1歳）
- ・家庭や社会でのルールを教える。（♂4歳、♀2歳）
- ・妻が子供の「現在」を見守っているとしたら、僕は子供達の「未来」を築く手助けをしたい。（♂4歳、♀1歳）

Q2：子供と接する時に心掛けていることはありますか？

- ・子供に対してウソをつかない、ごまかしをしない。（♀14歳、10歳）
- ・帰宅したら、必ず子供から一日の出来事を聞くようにする。（♂11歳、♀7歳、4歳）
- ・物事の結論は子供に選択させる。（♂8歳、6歳、♀4歳）
- ・物事の結果よりもプロセスを大切にしたいので、努力すること自体を評価するようにしている。（♂4歳、♀2歳）
- ・親が子供に何かする時は、理解していなくても、必ず説明してからする。（♂6ヶ月）

Q3：子供がいて良かったなと思ったエピソードを教えてください。

- ・子供の笑顔を見た時。（♀14歳、10歳）（♂11歳、♀7歳、4歳）
- ・家族で合奏したこと。（♂8歳、6歳、♀4歳）
- ・妻が幸せそうな表情で子供を見つめるのを見て。（♂6ヶ月）
- ・父の日に息子が絵を描いてくれたこと。（♂4歳、♀1歳）

Q4：子育てに戸惑うことはありますか？

- ・子供が夜泣きをした時、抱っこしたり、ミルクを飲ませてみたり、試行錯誤をくり返すものの、結局母親のおっぱいを吸うと安心して寝てしまう。男親の限界、無力感を感じることがある。（♂6ヶ月）
- ・忙しくて、イライラして子供に接してしまうことが多く、最近必要以上に「ダメ」と言っているような気がする。もっと懐の深い父親になりたい。（♂4歳、♀1歳）
- ・大人のエゴを子供に押し付け、傷つけてしまうことが多い。父親としての言葉に責任を持つことの難しさを感じる。（♂4歳、♀2歳）
- ・上の娘が反抗期を迎え、自分の少年時代を振り返りつつ、対応を思案中。（♀14歳、10歳）

Q5：いつか子供と一緒にかなえてみたい夢はありますか？

- ・仕事や勉強の事を考えずに、野山の一軒家で自給自足の生活をしてみたい。（♀14歳、10歳）
- ・子供や孫と同じ教会に通うことが出来たらいいなあ。（♂11歳、♀7歳、4歳）
- ・子供が運転する車で焼肉屋へ行って、思いっきりビールを飲む!!（♂8歳、6歳、♀4歳）
- ・聖イグナチオ教会での子供の結婚式に参列する。（♂8歳、6歳、♀4歳）（♀2ヶ月）
- ・子供たちに感謝の気持ちを伝えたい。できればその時、子供たちも親になっていて、お互い親としての話しができればいいと思う。（♂4歳、♀2歳）

● お母様へ

Q1：夫を「父親」と感じるのはどんな時ですか？

- ・夫を父親と感じることはあまりない。あくまで個人としての「彼」という風を感じる。（♂4歳、♀1歳）
- ・子供に対して「ビシッ」と対応してくれる時。（♂11歳、♀7歳、4歳）
- ・夫が「〇×子が一番可愛い!」と言う時。（♀2ヶ月）
- ・母親に比べて、常に客観的で、冷静な判断をしてくれる時。（♂8歳、6歳、♀4歳）
- ・夫が子供の質問に対して論理的に説明している時。例えば、子供が夕方「朝はどこへ行ってしまったの?」と言う質問に夫は、地球の自転の話から入って、時差というものを見せていた。（♀14歳、10歳）

Q2：子供はお父さんが好きですか？

- ・回答者全員がYES!と答えてくれた質問です。

さて、あなたはどんな感想を持たれましたか？ 回答者のお父様が「このインタビューは、私にとって、そして私たち夫婦にとって、子供とは何であるかを問いかけてきました。こういう機会を与えてくれて、ありがとうございます。」とおっしゃってくださいました。この記事が子供との関係を考える「きっかけ」になるなら、こんなにうれしいことはありません。



父親になること

「元気な女の子ですよ！」
平成12年4月20日午後3時46分、
虎ノ門病院の助産婦さんの声。
「抱っこしてみますか？」
私はそっと両腕を伸ばし、助産婦
さんが手渡してくれた小さな小さな生
命体を両手で受け取りました。
「かわいい赤ちゃんだなあ。」
子供が産まれたらすぐ親の心構えが
できると信じていた私は、目をつむっ
たまま小さな手足をばたばたと動かし
ている娘を前に、こんなのんきな感想
を持ちました。
「奥さんもとても元気ですよ。」
そうだ智子(妻)と私の娘が生まれた
んだ—そう実感できたのは助産婦
さんのこの言葉でした…。

いよいよ家族3人の生活が始まり
ました。平日の育児は妻が担当、そ
のかわり週末の育児はほぼ100%
(授乳すること以外は)夫の担当。
この取り決めにより、私は週末の
「つきあい」をすべてキャンセル。
しかし、はたで見るほど悲愴感はなく、
自分では「体育会系育児部」に
入ったつもりで週末の部活感覚でこ
なしてきました。

こうした生活を続けてきて、私の
中に芽生えてきた感覚があります。
私より1カ月早くパパになった友人
からは「育児は育自」という言葉を
プレゼントされました。子供を育て
ることは、自分を育てることだとい
う考え方です。

人間って、自分を育てることや、
自分を磨くことにはとても一生懸命
になりますよね。私にとっても自分
育ては大きなテーマです。このテー
マに沿って育児を考えるとどうなる
だろう？

そう考えて出た解答が、娘を「も
う1人の自分」と位置づけることで
した。まだ言葉も話せない娘をしっ
かりと育てるために私が選んだのは、
決して無理をせずこれまで慣れ親し
んできた「自分を育てる」気持ちを
そのまま活かすことでした。娘が
「かわいい赤ちゃん」から「もう1人
の自分」に変わった時—それは私の
育児に対する情熱が大きく変わった
時でもありました。

娘は今、5ヵ月目に入ろうとしてい
ます。頸もすわり、手足もよく動かし、
ご機嫌が良ければけらけら笑うし、ミ

ルクが欲しくなれば、あーあ一言っ
て訴えます。そんな自分の意志で行
動をはじめた娘を見ていると、「も
う一人の自分」であったはずの娘が、
もはや「もう一人の自分」ではない、
「宝物のような別の存在」に変わり
始めているのに気がつきました。育
児を自分にとってのメリットとして
とらえるだけでなく、「一緒に成長
しようね！」という肩の力の抜けた
自然な感覚として沸き上がってしま
した。



ウェディングベール

聖イグナチオ教会で結婚式を挙げ
られた方なら、誰もが身につけた白
いウェディングベール、皆さんはその
歴史をご存じですか？なんとベ
ールは、略奪(!)された花嫁が敵か



ら顔を隠すために身につけたのがは
じまりといわれています。古代で
は、自らの集落に若い女性がいなく
なると、他の集落からさらってきた
女性を妻として迎えたということだ
す。現代では想像もつきませんね。

現代社会では、「花嫁の純潔を表す」
白が広く認知されています。しかし、
白いドレスとベールが定番になった
のは、案外最近で、19世紀からのよ
うです。古代ギリシアやローマでは、
花嫁はあざやかな黄色のドレスとベ
ールを好んだようです。色を決める
のは、色の象徴する意味より、好み
だったんです。

今では、皆さんもご存じのように、
ベールは、花嫁の慎ましさと貞操の



象徴とされています。また、挙式当
日美しく装った花嫁を悪魔や、ふし
だらな視線から守る意味もあるそう
です。ヴァージンロードを無事花婿
の元へ辿り着き、彼の手でベールが
上げられた瞬間、もうベールを下げ
る必要がないのは、これから先、一
生花婿が花嫁を守ってくれるからで
しょう。

豊かな時間



父親の役割とは何だろう。無論母親と同様、子供の日常の面倒をみることは重要な役割だ。乳児であればおむつを替え、哺乳瓶でミルクを飲ませ、抱っこし、寝かしつける。幼児であれば幼稚園や学校に送り迎えし、食事を食べさせ、絵本を読んで聞かせる。こわれた玩具をなおし、雑誌の付録をつくる。行儀の悪い時は親としてきちんと叱る。子供が成長すれば、学校のことや将来の進路について相談に乗る。

とはいえ、多くの家庭では、父親は外に出て仕事をし、子供の日常の面倒をみる時間はわずか、というの

が現実だろう。

自分の子供時代を振り返ってみる。父親は存在した。そのことは深く感謝する。だが帰宅は遅かった。出張が多く、単身赴任もあった。高度成長期に働いていた父。存在はしたが、いないことの多かった父。

自分はもう少し子供と一緒に時間を過ごしたい。「豊かな」と言える時間をつくりたい。そうした時間の体験と記憶が、親から離れ、自立してゆく子供の心を支える糧になると思う。

例えば子供と一緒にある夢を実現する。ここでは大きな、ゆったりとした夢を想像しよう。南の—例えば沖縄の島々をシーカヤックで巡りながらキャンプするのはどうだろう。時計のかわりに太陽を意識し、風と波と対話する。透明な海の上を一日中漕いだ後、星空のもとで小さな焚き火を囲む。話したいことがあれば話せばいい、なければ黙って火を眺める。

しかし、いわば非日常的な時間のみに豊かな時間が宿るわけではない。

忙しい日々の中でも、子供との密度の濃い数分間は作れる。普段の会話の中で、子供の目を見ながら話す。子供が話す一言ずつに耳を傾ける。共に考える。ちょっとした冒険もできるだろう。早朝、一緒に近所のパン屋に行って、美味しそうなパンを買って食べる。子供が幼いのなら、しっかりと抱き、小さな手の温もりを感じながら手をつなぐ。子供が、自分は愛されている、と感じられる数分間を父親なりに意識しながらつくる。

そうした数分間を着実に積み重ねる。それが父親の役割のひとつかも知れない。



教会からのお知らせ

● 年内の行事予定 ●

- 11月 5日 (日) 15:00 結婚感謝の集い
12日 (日) 15:00 七五三祝福式
(どなたでも参加できます。当日受付)
- 12月 23日 (土) 14:00 子供と家庭のクリスマス・ミサ
24日 (日) 16:00 キャンドルサービス
クリスマス前夜ミサ
17:45 / 19:00 / 20:15 / 21:30 / 22:45 (日本語)
24:00 (英語)
- 25日 (月) クリスマス・ミサ
6:00 / 7:30 / 9:00 / 10:30 / 18:00 (日本語)
- 31日 (日) 24:00 一年の感謝のミサ
*ミサ後、お酒やワインがふるまわれます。
皆さん一緒に新年をお祝しましょう。

● 新年の行事予定 ●

- 2001年
1月1日 (月) 元旦のミサ
6:00 / 7:30 / 9:00 / 10:30 / 18:00 (日本語)
12:00 (英語)
13:30 (スペイン語)
- 4月15日 (日) 復活祭
- ☆主日のミサ時間
土曜日：18:00
日曜日：6:00 / 7:30 / 9:00 / 10:30 / 18:00 (日本語)
12:00 (英語)
13:30 (スペイン語)
♪第一日曜日の18:00はフォークミサ

羊飼いたちのクリスマス・イヴ

それは紀元前8年から6年くらいのことでした。ヨセフは婚約者のマリアが救い主のお母様になられることを、夢の中で天使に告げられました。はじめはちょっと困って、びっくりしましたが、心の広い、神様を信じる気持ちの強いヨセフは天使の言葉を信じて、マリアと生まれてくる赤ちゃんを守っていこうと決心しました。

その頃、ローマの全土では皇帝の命令によって、全ての人は戸籍に登録されることになりました。この登録をするために、ヨセフはマリアを連れて、住んでいたガリラヤの町ナザレから、故郷ユダヤのベツレヘムという町にやってきました。もうすぐ赤ちゃんが生まれるマリアをロバに乗せて、ヨセフは泊まる場所を探しましたが、宿屋はどこも空いていませんでした。困った二人は、家畜を飼う洞穴に身を寄せることにしました。そして、牛や馬のいるその薄暗い洞穴で、救い主イエスはお生まれになったのです。

さてその地方には羊飼いたちがいました。羊飼いとては昼はもちろん、夜も野宿をして羊の番をしている人たちでした。イエスがお生れになったその晩も、羊飼いたちは、ごわご

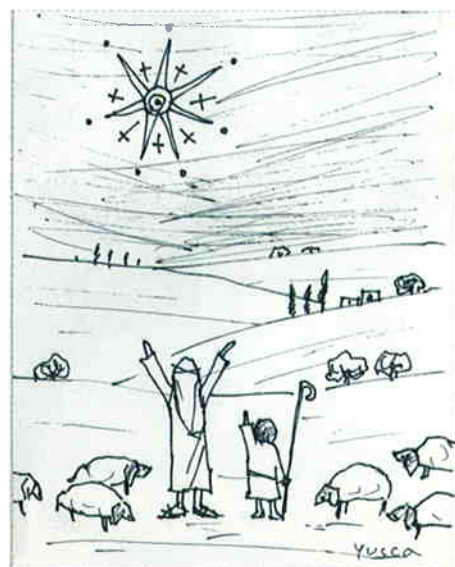
わした布をかぶり、とても粗末な格好をして、野原で互いに寄り添ってうとうとしていました。そばでは羊たちがひざを曲げて寝ています。空にはたくさんの星が瞬いていました。辺りの空気は昼間とはうってかわってひんやりと、羊たちの臭いも漂っています。

ちょうどイエスがお生まれになった頃のことでした。あたりが急に昼間のように明るくなりました。あまりの強い光に羊飼いたちは怖くなりました。すると声が響きました。「今日、このダビデの町ベツレヘムに、救い主がお生まれになった。天においては神に栄光、地には平安…」驚く羊飼いたちの頭上いっばいに、天使の大群が現れ、大きな声で神をたたえて歌うと空のかなたへ消えてゆきました。

羊飼いたちはしばらくあっけにとられていましたが、やがてとっても嬉しくなりました。なぜって、いつか救い主がきっとお生まれになるということは、小さい時から、おじいさんやおばあさん、お父さんやお母さんから何度も何度も聞かされていたからです。だからみんな、なんとなく「いつなのかなあ」と待っていたのです。みんなは顔を見合わせて、

「じゃあ、やっぱりあの話は本当だったんだ。」と大喜びしました。

「さあ、せっかく神様が僕たちにじかに知らせてくださったんだ。すぐお祝いにベツレヘムへ行こう。」そして家畜のいる洞穴のかいば桶の中で眠っていらっしゃるイエスを見つけ、マリアとヨセフにおめでとうを言いました。羊飼いたちはとても安心しました。だって救い主の赤ちゃんはとても粗末なようすでしたので、自分たちがみすぼらしい服を着て、汗やほりの臭いがすることなど気にせず、心からお祝いを言うことができたからです。そしてこの良い知らせをみんなに伝えようと、方々に走って行きました。



ちょっと聞いて下さい

—粟本昭夫—

「社会で働いている時には、それなりに仕事も任され、毎日忙しく充実していました。結婚後退職してからどこにも属していない孤立を感じます。お稽古ごとをしたりして、日々を忙しく過ごしていますが、空しさを覚えます。」

「私は子育てに無我夢中で毎日を送っていますが、自分は何なのだろうと、ふと空しくなってしまう。」

あなたの感じている空しさ、孤独感、不安感の根底にあるものは、あなたの中にある、人に評価されたい、認められたい気持ちからではないでしょうか。これは誰もが感じる、当然の思いです。

しかし、「あの人は何かができる」とか「あの人はあんな事をして立派だ」と、行動にばかり目がいってしまうと、結局自分が振り回されるだけです。それは物事の価値判断を人の目に置いているからです。

考え方を少し変えてみましょう。

人の目ではなく、あなた自身の目で、判断する勇気を持って、自分の心の中に判断基準を育てましょう。少なくとも、何もかも御存知の神様はあなたを理解していらっしゃることを実感してみませんか。






それに、あなたは本当に孤独ですか？ あなたの周りにいる家族、友人達にとっても、あなたはかけがえのない存在なのではないでしょうか？ そのままのあなたにもっと自信を持って、あなたが良いと思えるものを大切に、日々を過ごしてみてください。

Tapenade

タプナード

(南仏プロヴァンスで昔から伝わる
オリーブを使ったペースト状のソース)

● 作り方 ●

- a (
-  オリーブ
 -  ケイパー
 -  アンチョビー
1. aをフードプロセッサーに入れ
荒みじんにかくはん。
- b (
-  オリーブオイル
 -  しお、こしょう
2. bを入れ、「おいしい」と感じる
位に調味する。



フードプロセッサーがない場合は
包丁でaを小さくさいりんでボール
に入れてbで調味つけ。



● 食べ方色々 ●

レモン汁やマスタードを加
えて、少しあまリませたり。

りや缶を混ぜたり、
応用がいろいろまく
タプナードです。

にんにく、メンチオ、セウガらし
を加えてちみつオリエタレ
風にしたリ。

ゆで卵の黄味を混ぜて
残りの半分にセカた自身
につめてカナッペにしたリ

魚や野菜のソースにしたリ



● 住所変更された方、ご連絡ください!

(封筒は捨てないで!!)

封筒の宛名の下に印字されている番号があなたの登録番号です。新住所は、この番号と一緒にお知らせください。番号が判らない方、番号のない封筒がお手元に届いている方は、挙式年月日と神父様のお名前を書き添えてください。よろしくお願ひします。

- **One** に関するご意見、ご質問なんでもお寄せください。
- 夫婦二人のお店や、レストラン、ペンションなど **One** 誌上で紹介したい方、大歓迎です!!

● 東京大聖書展 (11/2~19) 東京オペラシティにて開催
ミレニアム (大聖年) を記念して、東京大聖書展が開催されます。歴史的にも価値のある死海写本をはじめ、シャガールの描いた聖書画など、興味深い展示内容となっています。興味のある方は、ちょっとのぞいてみてはいかがでしょうか。(入場料大人: ¥1000 教会事務所でも取扱中)

● ご存知ですか!? ラジオ「心のともしび」ニッポン放送
(月~金 5:25) 出勤前の5分間、心のウォーミングアップにいかが?

こちらのメールアドレスは e-mail:one@ignatius.gr.jp
ただ今ホームページも工事中…乞う、ご期待!

— 編集後記 —

猛暑が終わったと思ったら、あっという間に肌寒くなりましたね。クリスマス
の時期もあと少しでやってきます。今年は20世紀のしめくりの年、いろいろな
ことがありました。

なんとといっても、**One** の編集に新人が参加することになったのです。新たに
入った5名は、皆今年の春に結婚したばかり。もうすぐ10号目を迎える **One**
に新風を吹き込むことができたでしょうか?

新風といえば、今回の紙面は、今までより2ページ増えて6ページにボリュ
ームアップしています。量、内容ともに充実されていると思いますが、いかがでしたか?

初めて編集に参加しましたが、思っていたよりも大変な仕事だったので、正直
いってびっくりしました。でもそれ以上に、楽しい話し合いの時間がもてたので、
参加して良かったと思っています。これからも、よろしくお願ひいたします。

(順子・亜佐子)

編集参加者(五十音順)

内田京子
小池雅子
小林亜佐子
小城林ゆき
鈴木正人
鈴木肇
鈴木庸子
武木伸子
玉田健太郎
東所恵理子
所福由香
福森達夫
柳森順子
山本亜希子
谷本晃
山本浩

発行:平成12年10月18日
聖イグナチオ教会 **One** 編集局
(担当:城間正人・鈴木庸子)
〒102-0083
東京都千代田区麹町6-5
Tel:03-3263-4584
Fax:03-3263-4585
URL:http://www.ignatius.gr.jp
e-mail:one@ignatius.gr.jp

印刷: (株) 六甲出版
兵庫県神戸市灘区岩屋北町3-18
この冊子は再生紙を使用しています。